

令和6年度7月倉敷市立自然史博物館協議会 議事録（要旨）

開催日時) 令和6年7月3日(水) 13時30分～15時30分

開催場所) 倉敷市立自然史博物館地階講義室

報告事項) 令和5年度事業報告
令和6年度事業計画
中期計画の点検(令和6～10年度)について

出席委員) 石垣忍委員(会長)、尾崎勝也委員、小野恭一委員、片岡博行委員、末宗安之委員、
西山圭子委員、山野ひとみ委員、吉岡勉委員(副会長)

欠席委員) 碓京子委員、宮原勝志委員

事務局) 仁科康教育長、森茂治生涯学習部長、杉本紀明館長、三谷潤二郎主幹、奥島雄一主幹、
武智泰史主幹、萩原知博主任、江田伸司学芸員、鐵慎太郎学芸員

傍聴者) なし

議事録（要旨）

1 開会

事務局

これより令和6年度倉敷市立自然史博物館協議会を開催する。

2 開会あいさつ

事務局（教育長）

倉敷市教育委員会教育長の仁科でございます。自然史博物館協議会の開会にあたり、一言ごあいさつ申し上げます。委員の皆様には、本市の生涯学習の推進に、平素からご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。また、公私ともにお忙しい中、この協議会にご出席くださり、重ねてお礼申し上げます。

さて、倉敷市立自然史博物館は、本年で41年目を迎えることとなりました。開館以来、自然に関わる資料の収集、保管、調査を行い、展示事業を通じてこれらを未来に継承するという役割を担うことを目的に様々な業務にあたってきました。40周年の節目となった昨年は、県内18の自然史系博物館と協力したスタンプラリー・クイズラリーの実施や、100万点を超える収蔵品の中から選りすぐりの逸品を展示する「秘蔵お宝展」の開催など、さらに自然史博物館をよりよく知っていただくよう取り組んでまいりました。今後も、市民の皆様に企画展や講座、野外観察会など各種機会を提供していくとともに、昨年度、この協議会でご報告させていただきました「新自然史博物館整備事業」への対応も着実に進めていきたいと考えております。

本日のこの協議会は、博物館法及び自然史博物館条例に基づき設置されたもので、博物館の運営に関し、意見を述べていただく機関とされております。この後、自然史博物館の現状について、ご説明させていただきますが、委員の皆様方には、多角的な視点、また専門的な観点から、忌憚のないご意見を賜り、今後の博物館運営に活かしてまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。引き続き、自然史博物館の運営・活動に幅広くご支援をいただきますよう、お願いを申し上げて、開会のあいさつとさせていただきます。

3 委員・事務局職員自己紹介

4 協議事項

（1）正副会長の選出について

事務局

本日の協議会は昨年11月末に委員の任期満了に伴う改選後、最初の協議会にあたりますので、規則に基づいて、委員の皆様の互選により、会長・副会長を選任していただきます。立候補または推薦はございますか。

委員

推薦させていただきます。会長に石垣委員、副会長は吉岡委員にお願いしたいと思います。

事務局

ただいま会長と副会長のご推薦がありました。他に推薦などありますか。

事務局

会長は石垣委員、副会長は吉岡委員にお願いしたいと思います。石垣委員、吉岡委員に一言ずつご挨拶をお願いします。

会長

倉敷市立自然史博物館は移転という課題がある。スムーズにこれを乗り越えられるようサポートしていきたい。

副会長

倉敷市立自然史博物館の移転・発展ということで、協力していきたい。

事務局

ありがとうございました。それでは協議に移らせていただきます。

5 報告事項

会長

まず、事務局側から報告事項として、令和5年度事業報告・令和6年度事業計画・中期計画の点検（令和6～10年度）について説明をお願いします。

事務局

まず、令和5年度事業報告につき、館報にある倉敷市立自然史博物館中期計画の項目に沿って主だったものを紹介する。

資料収集保管事業に該当する「集めて未来につなげる」について、まず令和5年度の状況を説明する。標本資料については昆虫標本の大きなコレクションの寄贈を含め全部で49,300点強を受け入れ、同時に5,000点強を登録整理し、文献等は1,762点の受入登録をした。

つづいて受入れ総点数について、収蔵標本は開館以来41年目の令和5年度末までに総計1,097,000点に達した。その93.7%が寄贈によるものである。地学では13,000点、植物では323,300点、昆虫では647,300点、動物では113,400点である。植物と昆虫は中四国地方ではトップクラスの点数である。動物では貝類標本が多い。これらの標本は展示のほか、学術的なものを中心に研究などに用いられている。令和5年度は、標本は141件（地学2件、植物33件、昆虫104件、動物2件）、文献等は34件の利用があった。また、収蔵資料が論文等に引用された著作権数は17件となっている。一例として、東京大学の研究者が昆虫の新種の研究を行い、その論文に記載された基準標本が当館に寄贈された。

調査研究事業・展示事業・教育普及事業に該当する「教養文化の向上をめざす」について説明する。まず、調査研究事業での野外調査回数は計115回で、著作件数は122件であった。野外調査は主に自然観察会の下見や実施の際にあわせて行っている。著作は例えば、山陽新聞社（さ

ん太タイムズ)の「自然のおはなし」の連載などを行い、これは20年以上続いている。

展示事業では特別展としては開館40周年を記念して「倉敷市立自然史博物館秘蔵お宝展」を開催し、会期中に12,396人の観覧があった。通常、収蔵資料として1点しかないものは常設展に出していないが、この特別展は収蔵庫にあるそのような貴重な標本を特別に展示したものである。その他、特別展以外の期間限定の特別陳列として「新着資料展」「畠田和一貝類コレクション展」「しぜんしくらしき賞作品展」「みんなの動物ラボ」を開催した。

教育普及行事としては、野外で開催する自然観察会18回(参加者数944人)、室内がメインの博物館講座7回(参加者数175人)、各専門分野で開催している各種教室23回(参加者数700人)、依頼により館外に出向いて開催している出前講座25回(参加者数867人)などを開催した。参加人数等の実績は、コロナ禍前の水準に戻ってきている。中学生以下の参加人数については倉敷市第七次総合計画における目標値をクリアしており、順調に伸びている。

「人づくりを担う」ではボランティア活動について説明する。令和5年度は、延べ744人の活動があり、多くの方々に標本整理でご協力いただいている。また、学生の受入れ状況は、中学生を中心とする職場体験は7校から計13人、大学生の学芸員資格取得のための博物館実習は4校から4人、インターンシップは2校から2人を受け入れた。

利用者への支援・情報提供では館外者との論文投稿などが14件あった。また、問合せに対するレファレンスは890件対応した。

「連携して共に成長する」では、館外の団体との連携事業を説明する。収蔵資料の連携した活用として、学校や公民館などに展示セットを貸し出す「まちかど博物館」(台数:60台)の新規申し込み件数が22件、新規貸し出し件数が46件あった。令和5年度は、「まちかど博物館」の利用促進のため1か月程度「貸出標本大展示会」として展示の機会を持った。また、他館への展示協力件数は5件だった。

博物館友の会と協力した事業は共催行事件数が36件で、そのうち、2,000人ほどの参加人数がある「自然史博物館まつり」への協力もいただいている。

「より魅力的な博物館をめざす」ということで、利用者数の実績を報告する。令和5年度の施設利用者数は41,444人だった。また、できるだけ多くの方にご利用いただけるよう広報活動に力を入れている。広報手段も電子化を進めながら、一番詳しい情報をタイムリーに発信するホームページに誘導する策としてSNSも活用している。X、Instagramともに順調にフォロワー数が伸びている。

次に、令和6年度の事業計画につき、「倉敷市立自然史博物館2024年度イベントカレンダー」にもとづき紹介する。まず、展示では、第33回特別展「ぼくらのまちの7つのみどり」を実施予定である。植物の展示は来館者を集めにくいだが、イベントなどで工夫しながら来館者を増やしていきたい。自然観察会では、特に倉敷市立自然史博物館友の会主催で始まった「倉敷みらい公園いきものさがし」は初心者の方に大変好評である。「おかやま自然探訪」のシリーズは県内の平成大合併前の旧市町村をめぐるシリーズものの自然観察会である。「高梁川流域自然たんけん」は高梁川流域連携中枢都市圏事業の一環として高梁川流域の10の市町を観察場所として実施している。専門分野の自然観察会も行っており、先日の「夏だ! 昆虫採集」は大雨だったが多数の参加があった。友の会の方が中心に行っている「自然素材を使った手作り教室」のほか、「標本の作り方の講座」、「自然の標本なんでも相談会」、各分野の「学芸員研究紹介」、11月の「自然史

博物館まつり」なども予定している。

次に、中期計画の点検（令和6～10年度）についてについて説明する。今回は2期目である。ライフパークに移転するという市の方針が示されており、目標値を定め、絞り込んだ評価指標を作成した。その中で「集めて未来につなげる」では標本の登録点数・利用件数、「教養文化の向上を目指す」では観覧者数・行事への参加者数、「人づくりを担う」ではボランティアの延べ人数・職場体験の受入人数・レファレンス対応件数、「連携して共に成長する」ではまちかど博物館の貸出件数・学校用標本の貸出件数・出前講座などの講師派遣件数、「より魅力的な博物館を目指す」では友の会会員数・マスコミ報道件数などをあげている。

会長

事務局からの報告につき、意見はあるか。

会長

倉敷市立自然史博物館の標本は寄贈によるものが大部分だが、それは活用していただけるといった市民の信頼によるものであり、標本が増えていくことは将来への遺産になっていく。これは倉敷市立自然史博物館中期計画の項目「集めて未来につなげる」そのものである。そこで問題になるのが収蔵庫の問題である。新館建設ではとりあえずこの程度の面積を確保しておこうということであろうが、年月が経ち、活用されないまま、収蔵庫がいっぱいになったら、環境の悪い廃校になった学校の教室に置かれる標本や、破棄される標本もあると聞いている。自然史博物館としてはどのように考えているか。

事務局

具体的にどの程度の収蔵庫が確保できるかということは現段階では決まっておらず申し上げられない。他の自治体同様、倉敷市も人口減で将来の税収確保が困難と見込まれており、その点は考えなくてはならない。当館としては資料収集方針に基づいて収集を継続しており、本館に収まりきらない標本は休校中の学校内に保管している。他館では、標本を受け入れない・破棄することもあると聞くが、当館では休校の教室内に防虫・遮光などの対策を講じつつ収集保管に努めている。新しい博物館でこの収蔵状況がどの程度改善されうるかという点は不透明だが、できるだけ収蔵状況の改善に努めていきたい。

会長

高知県には自然史系の博物館はないが、立地の面からも特徴的な動植物や地質が非常に多く見られ、それを個人でコレクションしている人もいる。それらの方々は高齢化し、死去された方もあり、貴重なコレクションの行き場がないといった状況になりつつある。岡山県は倉敷市立自然史博物館があるので、そのようなことは避けられており、標本が残っていることはとても大事なことである。そのことも考えつつ新館のことを考えていただきたい。

委員

2点ある。まず、全国的に植物標本のDNA解析が進み、その結果、新種と判明するものがない

り出てきた。標本として収蔵されている意味がそこにある。そして岡山県内でその新種が存在するかを調べるにはやはり収蔵標本の研究が必要になる。次に、各自治体に森林環境税が分配されているが、林業があまり行われていない倉敷市では、真備町の竹林や由加山の天然林などの環境保護に関する博物館を交えた啓発教育に使うこともできるのではないかと。

会長

学校関係の利用でなにか意見はないか。博物館の学校利用は多いが、小学生以下の割合が多く、中学生・高校生の割合は少ない。しかし、中学生の学習内容には植物・動物・昆虫・地学の内容が多く扱われており、中学生の博物館利用が重要と思う。中学生が利用するにはどうすればよいか。

委員

学校利用の場合、1学年の規模が大きい学校であれば人数が多すぎて入りきらないので、班別学習での理科関係の活動で訪れるのは良いと思う。また、理科室では教材用標本はあっても次第にバラバラになり使えなくなってしまう。博物館に貸出用の標本があるのは良いし、貸出が行われているということをもっと周知して、来館しなくても生徒に見せることができるようになれば非常に有意義なことだと思う。また、教員研修のために博物館を利用させていただければと思う。

会長

まず、先生方に楽しんでもらうことが学生や生徒を連れてきてもらうきっかけになる。6月は教員のための博物館デーといわれ、それに参画している博物館も多いと聞く。先生方にもっと博物館の面白さや利用の仕方を知っていただければ良いと思う。

委員

生徒の自由研究に関し指導できる教員も必要である。例えば、倉敷市立自然史博物館は標本を貸し出しているのもそれが指導の際に大いに参考になる。

委員

子どもたちに関わっているが、どの子どもも小学生の時に遠足などで来たことがあるとっている。個人的な感想では、たくさん貴重な標本や情報はあるが難しいと感じる。親しみがわくようなわかりやすいものがよい。これから人口が減っていく中で大切な標本を残していくためには、それが好きな子どもが育っていく必要があり、それも倉敷市立自然史博物館の役割と思う。

事務局

敷居の低い親しみがわくような展示になるように考えていきたい。

副会長

倉敷市立自然史博物館中期計画の点検で、「自然史博物館利用者から自然史系大学・職業等に進んだ人数」の項目は重要。また、「来館者総合満足度」の項目があるが、これは1回見学した方の

満足度なのか、定期的に来館している方の満足度なのか。

事務局

これは5段階評価の来館者アンケートの結果であり、年代とかといった分け方で統計を取っていない。いただいたご意見は参考にさせていただきたい。

委員

特に植物は映像などにすると興味がわく。VR（仮想現実）などの映像を使った展示も取り入れてほしい。子どもは映像に興味を持つかもしれないし、それが発見につながることもある。

会長

子どもが興味を持ちそれが発展していく、あるいは、親しみやすさなども重要である。大きな博物館では学芸員以外に教育普及担当や広報担当などの職員もいる。どこの博物館でも人員増については苦労している。新しい博物館に移行する過程で人員増は考えられないか。倉敷市立自然史博物館中期計画の点検は外からの評価という面が強いが、研究など、外からは見えにくい部分についても力を入れていただければと思う。

委員

倉敷市立自然史博物館は倉敷市はもとより、それ以外の広い範囲でも幅広く活動している。学芸員も目標の達成などで大変だと思う。さらに言えば、動画などで実際の活動の様子などをさらに発信できないか。

会長

SNS は文章を入力するのも面倒で、動画で出ると意外と反響があった。

委員

SNS は広報の手段として重要だが、小ネタを出すとフォロワーが増える。小ネタはどのようなものを出しているか。

事務局

SNS では定例の情報発信のほかに、裏方の仕事を紹介すると反応が良い。最近では、スナメリが届きました、という投稿は人気が高かった。

委員

一般の利用者の了解をとる必要があるが、SNS で利用者のことが出ると集客効果が出ると思う。今は市の中心部にあるが、移転先では利用者が違って来るかもしれないので、広報媒体として SNS も重要だろう。

会長

一般の方からすると、博物館に対しては展示以外に裏方の仕事にも興味があると思う。倉敷市立自然史博物館は行事の数も多く、都市部の博物館に比べ参加人数も多いようである。それだけ倉敷市立自然史博物館は市民に対する自然史の知識普及・向上に健闘している。

本日の協議を終了させていただきます。

6 閉会あいさつ

事務局（生涯学習部長）

7 閉会

事務局

これにて令和6年度倉敷市立自然史博物館協議会を終了する。

閉会后、特別企画展「倉敷市立自然史博物館秘蔵お宝展 第2弾」展示解説

以上を、令和6年7月3日開催の令和6年度倉敷市立自然史博物館協議会議事録（要旨）とすることに同意します。

令和6年 8月22日

倉敷市立自然史博物館協議会
会長 石垣 忍

